



全国高校総合体育大会
陸上競技 走り幅跳び
決勝進出

昨年のインターハイは、予選敗退に終わるも大舞台で戦える手ごたえをつかんだ。「来年は必ず表彰台に上がる」。そこから1年、全てをインターハイにかけてきた。

平日は学校で基礎的な練習を、週末は競技場で跳躍し、修正、確認する日々を繰り返した。県大会、東北大会で、5.72をマーク。本番に向けて、調子はピークを迎えつつあった。

迎えた本番、待ち焦がれた舞台は、これまでにないほど緊張した。予選で5.80を跳び、大舞台で自己ベストを更新。「決勝はもっと上を狙える」と感じた。運命の決勝。1本目を失敗し、迎えた2本目は「跳んでいる瞬間を覚えていません」。着地点を確認すると6.7を超えていた。本人も応援団も期待した瞬間、赤旗が上がった。わずかながら、踏み切り板を踏んでいた。3本目は、悪天候の影響で力を出し切れずに終わった。

「人生で一番悔しかったです。次は必ず表彰台に立ちます」。高橋の目は来年の南東北を見据える。

高橋瑞希
Takahashi Mizuki

佐沼高3年
南方町新高石



写真左から、酒井恵、加藤美奈、山内彩未、西崎優花、佐々木葉(全員3年)

全国高校総合体育大会
カヌースプリント競技

登米高カヌー一部

女子カヤックシングル(200m 6位入賞、500m 8位入賞)
女子カヤックペア(200m 6位入賞、500m 8位)
女子カヤックフォア(200m 7位入賞、500m 7位入賞)

シングル=加藤
ペア=加藤・西崎
フォア=加藤・西崎・佐々木・山内・酒井(サポート)

夏に挑む Zoom Up Tome 2016 Special

一昨年、いところが棒高跳びで全中に出場した。その姿を見て「棒高跳びで全国大会に行く」と決め、顧問に棒高跳びへの挑戦を直訴。「今は、体ができていないから無理だ。しっかり鍛えてから挑戦しろ」と体力づくりをしてからの転向を進められた。

棒高跳びは、ポールを曲げてその反発力で跳ぶ。ポールを曲げるには、筋力や走力など、総合的な体力が求められる。1年間、4種競技で体を鍛え、2年進級後、転向が認められた。

転向から1年、目標に向けて着実にレベルアップ。通信陸上県大会で4.10を跳び、全中行きを決めた。「うれしかったですね。早く全中が始まれました」と全中決定の喜びを語る。

全中では、予選で自己ベストを大きく上回る4.20をマーク。決勝での活躍が期待された。しかし、決勝独特の雰囲気でのまれ、記録なしに終わった。「実力不足でした。全中の借りはインターハイで返します」ときっぱり。

千葉の棒高跳び物語は、第二章に突入した。

全国中学校体育大会
陸上競技 棒高跳び
決勝進出



千葉星那
Chiba Sena
米山中3年
米山町千貫

「納得はしている。満足はしていない」

昨年のインターハイは、全種目準決勝敗退に終わった。あれから約1年「インターハイ全種目入賞」を合言葉に、厳しい練習にも耐えてきた。その成果は、県予選全種目2年連続完全制覇という結果が物語っている。

迎えたインターハイ、シングルはジュニア日本代表の加藤が出場。

準決勝は厳しい戦いだった。結果200mで、加藤は2位でフィニッシュしたが、3位とコマ03秒しか差がなかった。決勝は200m 6位、500m 8位と共に入賞した。「目標は達成しました。でもメダルが欲しかったです。やりきったので結果なので納得はしています」と振り返る。

ペアは加藤・西崎が出場。大会前、加藤は西崎に「全種目メダルを狙うよ」と話していた。西崎はその言葉にうなづいた。「最後のインターハイ、私もメダルが欲しかったので」。

200mの決勝は、3位から6位まで1秒差以内の接戦だった。レース後半粘りを見せたが、メダルにはあと少し届かなかった。

「あと少しだったんですけどね。その少しが届きませんでした」と西崎は語る。

フォアは、加藤・西崎・山内・佐々木が出場。酒井はサポートメンバーとして、万が一に備えて集中を切らさなかった。主将を務める山内は「私と葉、恵が、美奈と優花をどれだけ支えられるかで、順位が決まると思っていました」と振り返る。

佐々木は「美奈は18レース、優花は12レースに出場。とにかく負担を減らしたかったの」と3人で雑用をこなした。フォアは両種目とも7位に入賞した。「全員が力を出し切った結果。納得はしていません。でも、監督にメダルを見せたかった」と山内。

「約1年、全員本心に頑張りました。6種目中5種目入賞は胸を晴れる結果です。加藤以外はインターハイで引退、もうカヌーでメダルは取れません。しかし、新しいステージで活躍することが、みんなにとってのメダルだと思えます」と工藤は部員にエールを贈った。